

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-101	高等学校	地理歴史	歴史総合	
※発行者の 番号	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	歴総 704	歴史総合		

1. 編修の基本方針

- 2条の目標を達成するため、次の通り編修した。
- ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、社会史などの歴史学の新しい研究成果をとり入れ、さまざまな視点から近現代史学習をより深めることができるコラム「トピック」や特設ページ「歴史のひろば」を設けた（第1号）。
 - ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページに、資料から単元の主題を考える導入の問い、資料を読み解き学習意欲を高める「読み解きのツボ」「ワーク」、学んだことを活用して考え、表現する「Try」など、さまざまな問いを段階的に設定し、近現代史を主体的かつ多面的・多角的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。さらに、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページ「アクティブ 読みとろう 考えよう 説明しよう」を、章の途中や章末に設けた（第2号）。
 - ・正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、歴史学習を通して、よりよい社会の実現に向けて生徒が課題を展望することができるよう、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察できる特設ページを設けた。また、本文ページとともにコラム・特設ページを通じて、女性の政治参加を求める動きや社会的地位の変化を考察できるよう工夫した（第3号）。
 - ・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、産業の発達にともなう環境問題の発生やその克服に向けた取り組みについて歴史的な視点から取り上げ、問いを活用して現代社会とのつながりや共通点・相違点を考察・議論することができるよう工夫した。また後見返し裏「日本の世界遺産」のなかで日本の自然遺産を取り上げた（第4号）。
 - ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、世界と日本の結びつきに注目させるコラム「Link 世界と日本」を設けるとともに、比較・関連付けの問いを活用することで、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えることができるよう工夫した。また、後見返し裏「日本の世界遺産」で日本の文化遺産を取り上げた（第5号）。

2. 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、地勢図によって世界の自然環境を概観できるようにした（第4号）。 ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、世界史における王朝・国の変遷を図表にして取り上げた（第1号）。 	<p>前見返し 1～2</p> <p>前見返し 3</p>

歴史の扉	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、「歴史と私たち」では地域の文化や歴史を伝えるものとして踊りに関する資料を取り上げた。また、明治期以降の外国との交流によって、踊りにも相互に影響が与えられたことに気付くことにより、他国を尊重する態度を養うことができるようにした（第5号）。 ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、「歴史の特質と資料」ではおもに明治期以降の装いに関する多様な資料を取り上げ、複数の資料から情報を読み取り、その変化について考察することができるようにした（第1号）。 	<p>p. 10～12</p> <p>p. 13～15</p>
近代化への問い	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解き、問いや仮説を立てていく形式をとることで、それを参考にして、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付け、自分自身の問いを表現することができるようにした。また、生徒が自身の問いを書き込めるよう、記入欄を設けた（第2号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、ルソーと中江兆民の著作を資料として取り上げ、日本と世界を比較・関連付けさせるようにした（第5号）。 	<p>p. 16～19</p> <p>p. 18～19</p>
第1章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第1章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを章末に設けた（第2号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、特設ページで近世の琉球とアイヌについて記述した（第5号）。 	<p>p. 20～21</p> <p>p. 32～33</p> <p>p. 28～29</p>
第2章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第2章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを章末に設けた（第2号）。 ・公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、産業革命による工業化の進展が、現代における児童労働や環境問題の出発点になったことに気づかせるようにした（第4号）。 	<p>p. 34～35</p> <p>p. 56～57</p> <p>p. 38</p>
資料の読み解き トレーニング①	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、生徒が主体的に絵画資料を読み解き、考察するうえで必要な基本的技能を身につけることができるよう、段階的に課題を設定した（第2号）。 	<p>p. 42～43</p>
第3章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点 	<p>p. 58～59</p>

	<p>から、章扉に世界地図や年表などを設け、第3章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した(第1号)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを章末に設けた(第2号)。 ・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、自由民権運動と女性の関わりについても取り上げた(第3号)。 	<p>p. 70～71</p> <p>p. 68</p>
第4章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第4章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した(第1号)。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを章末に設けた(第2号)。 ・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、公害としての足尾銅山鉱毒問題についてコラムで取り上げた(第4号)。 	<p>p. 72～73</p> <p>p. 88～89</p> <p>p. 85</p>
近代化と 現代的な諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、歴史学習を通して、よりよい社会の実現に向けて生徒が課題を展望することができるよう、「格差と平等」の観点から現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を考察する特設ページを設けた(第3号)。 	<p>p. 90～91</p>
国際秩序の変化や 大衆化への問い	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解き、問いや仮説を立てていく形式をとることで、それを参考にして、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付け、自分自身の問いを表現することができるようにした。また、生徒が自身の問いを書き込めるよう、記入欄を設けた(第2号)。 ・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、各国の男女平等普通選挙に関する年表を資料として取り上げた(第3号)。 	<p>p. 92～95</p>
第5章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第5章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した(第1号)。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを章の途中や章末に設けた(第2号)。 ・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、第一次世界大戦末期にイギリスで女性参政権が実現したこと、また日本でも女性参政権を要求する運動が展開されたことを取り上げた(第3号)。 	<p>p. 96～97</p> <p>p. 108～109, 116～117</p> <p>p. 110, 112</p>
第6章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第6章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した(第1号)。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを章の途中、および章末に設けた(第2号)。 	<p>p. 118～119</p> <p>p. 130～131, 146～147</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 男女の平等を重んずる態度を養う観点から、第二次世界大戦後に日本でも女性参政権が実現し、女性議員が誕生したことを取り上げた（第3号）。 	p. 141
資料の読み解き トレーニング②	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、生徒が主体的に文字資料を読み解き、考察するうえで必要な基本的技能を身につけることができるよう、段階的に課題を設定した（第2号）。 	p. 124～125
国際秩序の変化や 大衆化と現代的な 諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、歴史学習を通して、よりよい社会の実現に向けて生徒が課題を展望することができるよう、「統合と分化」の観点から現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を考察する特設ページを設けた（第3号）。 	p. 148～149
グローバル化への 問い	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解き、問いや仮説を立てていく形式をとることで、それを参考にして、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ、自分自身の問いを表現することができるようにした。また、生徒が自身の問いを書き込めるよう、記入欄を設けた（第2号）。 男女の平等を重んずる態度を養う観点から、世界経済フォーラムが発表しているジェンダー＝ギャップ指数を資料として取り上げた（第3号）。 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、地球温暖化対策の国際ルールであるパリ協定を資料として取り上げた（第4号）。 	p. 150～153 p. 153 p. 152
第7章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第7章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを章末に設けた（第2号）。 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、高度経済成長期の公害問題とその対策としての環境庁の設置などについて、特設ページで記述した（第4号）。 	p. 154～155 p. 166～167 p. 163
第8章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第8章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを章末に設けた（第2号）。 男女の平等を重んずる態度を養う観点から、男女雇用機会均等法の制定などを取り上げた（第3号）。 	p. 168～169 p. 178～179 p. 177
第9章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点 	p. 180～181

	<p>から、扉に世界地図や年表などを設け、第8章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した(第1号)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを章末に設けた(第2号)。 ・公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、環境問題や少子高齢化など現代社会が直面している問題について考えさせるとともに、その解決について話しあうことができるようにした(3号)。 	<p>p. 188～189</p> <p>p. 188～189</p>
現代的な諸課題の形成と展望	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、生徒の探究活動の例として「戦争の防止への国際的取り組みの歴史的経緯と課題」を取り上げ、「主題の設定と学習上の課題(問い)の設定」「資料の収集・分析」「考察・構想」「まとめ・表現」「学習の振り返り」の過程を架空の先生・生徒の会話形式で例示し、生徒がこれまでの学習をふまえて、主体的に探究活動の見通しをもつことができるよう工夫した。また、「まとめ・表現」に関しては生徒のテーマ設定の例や付箋による発表の例を掲載したほか、他の主題の設定例も示した(第3号)。 	p. 190～195
後見返し	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、「日本の世界遺産」を日本地図のなかで概観した(第4・5号)。 ・他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、現在の世界地図を掲載した(第5号)。 	<p>後見返し 4</p> <p>後見返し 5～6</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・学校教育法第五十一条三項(社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。)に即して、本文記述や特設ページなど教科書全体を通じて、国際社会に生きる高校生が世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から理解し、現代社会が抱える課題についても考察することができるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-101	高等学校	地理歴史	歴史総合	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	歴総 704	歴史総合		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

「歴史総合」が地理歴史科の必修科目であることを鑑み、生徒が興味・関心を持ちながら、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を無理なく学習できるように、以下の点について配慮した。

- 1) 生徒が世界とその中の日本を広く相互的視野から捉えることができるよう、各章の扉に、その章であつかう時代の概観した文章や世界地図、地域別年表などを置き、世界と日本の動きを関連付けながら学習できるようにした。また、世界と日本の結びつきに注目させるコラム「Link 世界と日本」や、世界と日本を比較・関連付けられるような問いを随所に設けた。
- 2) 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を身に付ける学習が一体となって展開できるよう、全編にわたって課題（問い）を設定するなど配慮し、特に本節（見開き2ページ）では以下のように学習上の課題を段階的に設定した。
 - ①冒頭の問い（気づきの問い）
…資料を読み取ることにより、生徒自身が疑問をもったり仮説を立てて学習に入るための問い。
 - ②節タイトル下の問い（学習課題となる問い）
…その節で扱われる歴史の推移や展開を生徒が考察し、理解するための問い。
 - ③末尾の問い「トライ」（学習のまとめとなる問い）
…その節で学んだことをふまえ、比較・関連付けや歴史的意義、現在とのつながりなどの観点から、生徒が自身の考えをまとめたり表現したりするなどして、より深い理解に至るための問い。
 - ④「読み解きのツボ」「ワーク」（資料を活用する問い）
…資料を読み取る際のヒントや着眼点を示したり、簡単な問いを設定するなどして、資料活用の技能を促すための問い。
- 3) 本文ページで習得した知識をふまえて、生徒が諸資料を活用しながら多面的・多角的に考察し、自分の考えをまとめたり表現したりする特設ページ「アクティブ 読みとろう 考えよう 説明しよう」を章の途中や章末に設けた。
- 4) 大項目A「歴史の扉」の「歴史と私たち」では、生徒が自分の身の回りの物事にも歴史があり、また世界の歴史ともつながっていることを理解できる身近な例として踊り（ダンス）を取り上げた。「歴史の特質と資料」では、装いを取り上げ、資料に基づいて歴史が叙述されていることや資料を取り扱う際の留意点に気づくことができるよう配慮した。さらに、「歴史の特質と資料」で学んだことをふまえ、資料を読み解く基礎的スキルを養うための実践ページ「資料の読み解きトレーニング」を本節の関連個所に設け

た。

- 5) B～Dの中項目(1)では、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解き、問いや仮説を立てていく形式をとることで、それを参考にして、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ、自分自身の問いを表現することができるようにした。また、生徒が自身の問いを書き込めるよう、記入欄を設けた。
- 6) Bの中項目(4)「近代化と現代的な諸課題」では「平等・格差」を観点に、Cの中項目(4)「国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」では「統合・分化」を観点にそれぞれ主題を設定し、よりよい社会の実現を視野に現代的諸課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養えるよう工夫した。
- 7) Dの中項目(4)「現代的な諸課題の形成と展望」では、生徒の探究活動の例として「戦争の防止への国際的取り組みの歴史的経緯と課題」を取り上げ、「主題の設定と学習上の課題(問い)の設定」「資料の収集・分析」「考察・構想」「まとめ・表現」「学習の振り返り」の過程を架空の先生・生徒の会話形式で例示し、生徒自身が主体的に探究活動の見通しをもつことができるよう工夫した。また、「まとめ・表現」に関してはテーママッピングと付箋による発表を例として掲載したほか、他の主題の設定例も示した。
- 8) 多様な視点から近現代史学習を深め、生徒の興味・関心を高められるよう、さまざまなテーマを取り扱った「歴史のひろば」を随所に設けた。「歴史のひろば」には諸資料のほか、主題を明確にする問い(冒頭の文章)、まとめの問い(Try)を設け、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を身に付ける学習が一体となって展開されるよう配慮した。
- 9) 近現代の歴史が現代的な諸課題の形成に深く、直接的に関わっていることを認識できるよう、コラム「Link 歴史と現在」を設けた。
- 10) 近現代史における著名な人物を取り上げ、歴史上に果たした意義や興味深いエピソードを記述したコラム「ひと」や、ものにまつわる歴史のエピソードを紹介したコラム「もの」を随所に設けた。
- 11) 概念用語をはじめ、本文を理解するうえで重要な歴史用語については、「用語説明」でコンパクトにわかりやすく解説した。
- 12) 全編にわたってキャラクターを活用し、生徒の興味・関心を高めるとともに、生徒が自ら考察、構想する補助とした。
- 13) ヨーロッパ・アメリカや東アジア、日本など、それぞれの地域の近現代史を通して学習する際に役立つよう「地域別インデックス」を設けた。
- 14) 歴史を学ぶうえでの基本的な知識をまとめた「歴史を学ぶための基礎知識」や、中学校で学んだ宗教についての基本的な知識を復習できる「世界史のなかの宗教」を設け、生徒がスムーズに近現代史学習に入ることができるよう工夫した。
- 15) 近代国家の形成期に、我が国の領土がロシアなどとの間で国際的に確定されたこと、また我が国が国際法上正当な根拠に基づき竹島、尖閣諸島を正式に領土に編入した歴史的経緯について取り上げた。
- 16) 近現代史上の主要な出来事がどの内閣のときに発生したかを確認するため、巻末特集「内閣のあゆみ」を設け、時間的な流れを理解しやすくした。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
歴史の扉 歴史と私たち －ダンスからみるいまと昔	A 歴史の扉 (1) 歴史と私たち	p. 10～12	1
歴史の特質と資料 －「装い」は何を語るのか	(2) 歴史の特質と資料	p. 13～15	1
資料の読み解きトレーニング① 資料の読み解きトレーニング②		p. 42～43 p. 124～125	2
近代化への問い	B 近代化と私たち (1) 近代化への問い	p. 16～19	1
第1章 近代化への胎動	(2) 結び付く世界と 日本の開国 (3) 国民国家と明治維新	p. 20～33	4
第2章 欧米の市民革命と 「西洋の衝撃」		p. 34～57	7
第3章 欧米諸国と 日本の国民国家形成		p. 58～71	5
第4章 帝国主義の時代		p. 72～89	6
近代化と現代的な諸課題 －産業革命にはじまる工業化は 人々に何をもたらしたのだろうか	(4) 近代化と 現代的な諸課題	p. 90～91	1
国際秩序の変化や大衆化への問い	C 国際秩序の変化や 大衆化と私たち (1) 国際秩序の変化や 大衆化への問い	p. 92～95	1
第5章 第一次世界大戦と大衆社会	(2) 第一次世界大戦と 大衆社会	p. 96～117	9
第6章 経済危機と第二次世界大戦	(3) 経済危機と 第二次世界大戦	p. 118～147	11
国際秩序の変化や大衆化と 現代的な諸課題 －大規模な人口移動にともない、 どのような問題がおきただろうか	(4) 国際秩序の変化や 大衆化と現代的な 諸課題	p. 148～149	1

グローバル化への問い	D グローバル化と私たち (1) グローバル化への問い	p. 150～153	1
第7章 冷戦と脱植民地化	(2) 冷戦と世界経済 (3) 世界秩序の変容と日本	p. 154～167	4
第8章 多極化する世界		p. 168～179	4
第9章 グローバル化と現代世界		p. 180～189	2
現代的な諸課題の形成と展望 —現代にさまざまなある諸課題とどのように向きあっていけばよいのだろうか	(4) 現代的な諸課題の形成と展望	p. 190～195	2
		計	63